

研修報告書 No.9

所 属： 昭和大学北部病院

氏 名： 生井 裕人

研修先： 土佐市民病院

この度はコロナ禍でお忙しい中、土佐市民病院にて研修させていただき誠にありがとうございます。私はこの研修で、一般外来研修、検査の見学及および入院患者の管理を担当させていただきました。特に外来は元の病院でもやらせていただいたことはありましたが、検査のオーダーや診療方針までは任されることはなく、初めは何をやったらいいか分からないような状態でした。しかし、指導医の先生方の助言や補助によって少しずつ 1 人で診療する不安感というものは無くなってきたような気がします。比較的重症な方の治療方針や薬のオーダーなど、研修医ではできないことも多々あり、力不足を感じることも多かったです。それでも検査や医療面接を 1 人でやらせていただくということはわずかながら自信を身に着けるという意味でとても貴重な体験であったと思います。また、外来を午前もしくは午後に組み込み、その他のどちらか一方を救急・検診・入院などの時間に充てる研修医個々の志望や興味に併せた自由度の高いプログラムは、様々な勉強や体験をしたい研修医にとっても合っているものだと思います。

私が高知に降り立って地元または勤務先と異なると感じた点は、高齢者の方が多いということです。勿論、私が勤めている病院でも患者さんはご高齢の方が大半ですが、それでも高知の患者さんは 20 代 30 代の方は少ないように思われます。しかし、高知の方は心優しくとても大らかな印象を受け、とても活気があるように感じます。それは、高知の自然の豊かさと豊富な食べ物、地域密着型の横のつながりが大きいのではないかと思います。私が降り立って最初に食べた鰹のたたきも絶品でしたし、休日に散策した仁淀川はとても美しく、人からもとても親切に接せられました。しかし、調べてみて意外に感じたことは高知県の平均寿命や健康寿命が都道府県別にみると、下から数えた方が早いということです。私の推測になりますが、原因としてはやはり名産のお酒や鰹など海の幸などにつけるお醤油などの塩分が影響しているのではないかと思います。実際に診察してみて、横浜の病院と比較してどちらが多いというようなデータを抽出することはできませんが、やはり感覚としては高血圧や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病は多いように感じられました。高知県特有の文化や風習は素晴らしく、これからも守っていただき末永く続いてほしいものです。ただ、医療的な観点から見て“過ぎたるは猶及ばざるが如し”リスクもあるような印象も受け、高知県の方々には是非とも適度な飲酒と食生活を心掛けていただき、長生きしてほしいと切望しております。

私が過ごした月は大雨で特に不運にも週末にあたることが多く、観光に行きたい日も自

宅で待機していることもありました。しかし、なんとか自転車や交通機関を利用し高知城や坂本龍馬記念館、日曜市など満足のいく観光ができたと思っております。コロナに関しては幸い都心に比べれば高知の感染者数は少なく、まだ宣言は出ていなかったのが比較的自由な往来はできました。土佐市民病院では発熱患者を診ることもありましたが、コロナ陽性の患者さんを診る機会はあまりなかったと感じました。やはり比較的高齢の多い地域でありワクチン接種率が高かったことと歓楽街が少なく外出する人があまりいなかったのが要因だと思われます。それでも、コロナ患者の入院管理でいつもより対応が煩雑化している面もあると思います。都心と違い交通インフラも豊富ではなく、病床も限られてくるので地域密着型の横のつながりを重視した医療が求められます。私自身、発熱患者を対応するときは、病歴や検査結果、本人の希望を勘案して上級医、指導医に相談して抗原検査やPCR検査などを行わなければなりません。確定診断されていない患者さんでも、PCRの結果が出るまで自宅待機を命ぜざるをえない状況は多々ありました。感染者が少なく、リスクの低い地域だからこそ積極的な予防が必要なのだと実感しました。最後に、研修をさせて頂いた土佐市民病院と高知医療再生機構の皆様および関係者各位、地元の皆様ありがとうございました。この経験を糧により患者さんの心を慮った医師となり精進していきたいと思ひます、誠にありがとうございました。